



山梨県障害者差別解消支援ネットワーク会議

事務局：山梨県障害福祉課
〒400-8501
山梨県甲府市丸の内1-6-1
Tel 055-223-1460
Fax 055-223-1464
E-mail shogai-fks@pref.yamanashi.lg.jp

【トピック】

- 第1回ネットワーク会議を開催しました。
- お寄せいただいた「事前の環境整備事例」や「合理的配慮提供事例」を紹介しします。

第1回山梨県障害者差別解消支援ネットワーク会議開催

8月1日（火）、県中小企業会館の山梨県商工会連合会会議室を会場にして、本年度第1回山梨県障害者差別解消支援ネットワーク会議を開催しました。会議では、冒頭で発生後一年となる「津久井やまゆり園」事件で犠牲となられた方々のご冥福を祈り黙祷しました。



【「津久井やまゆり園」事件犠牲者への黙祷】

議事として、事務局から平成28年度の本県における障害者差別に関する相談等の状況についての報告、山梨県視覚障がい者協会副会長矢崎繁氏の盲導犬使用に関する報告、関東運輸局山梨運輸支局及び山梨行政評価事務所からの事前の環境整備と合理的配慮提供事例の報告がありました。

平成29年度の新体制として、会長に小畑文也氏（山梨大学教授）、副会長に竹内正直氏（山梨県障害者福祉協会理事長）及び中野博氏（山梨県社会福祉法人経営者協議会副会長）をそれぞれ再任しました。



【小畑会長就任の挨拶】

28年度の障害者差別に関する相談等の状況

事務局からの報告では、相談内容の特徴として障害種別により差別的扱いの訴えと合理的配慮提供の要望の割合に差があること等が示されました。視覚障害では盲導犬使用者に対する入店拒否等の差別事例、身体・精神・聴覚障害では、合理的配慮提供の要望が多くなっています。また、合理的配慮提供での好事例の紹介とともに、繰り返される手話通訳者の未設置と盲導犬使用者に対する入店拒否事例を取り上げ、資料を示し内容の詳細を説明しました。

山梨行政評価事務所の報告

山梨行政評価事務所の永田委員からは、視覚障害者に関する行政相談の事例が報告されました。市役所と銀行の窓口対応の例では、マイナンバーカード交付申請の際に目を閉じている顔写真添付の書類受取拒否、ATM操作時の暗証番号入力の代行拒否の事例が示されました。いずれも、行政評価事務所の対応で申請や代行ができることになりました。また、日本年金機構からの通知が墨字で読めないという訴えには、総務省内の検討委員会で音声コードを印刷することが望ましい旨が年金機構に対し伝えられました。視覚障害の特性に対する理解と配慮の周知不足が原因ですが、理解しようという意識と的確で柔軟な対応が求められる事例です。

関東運輸局山梨運輸支局の報告

関東運輸局山梨運輸支局の渡邊委員から、笛吹市と韮崎市の小学校における交通バリアフリー教室の様子が報告されました。障害の疑似体験と介助体験を核として、「誰もが高齢者や障害者等に対して自然に快くサポートできる『心のバリアフリー』社会の実現」を目指して実施されています。

介助する側される側の体験は参加児童にとって貴重な経験です。障害者差別解消の取組として、年少の時期からの「お互い様感覚」の磨きは大切です。障害者差別解消のための事前の環境整備事例として、この教室実施の意味は大変大きいと感じます。



【会議で事例報告をする渡邊委員と永田委員】



盲導犬を使用して

【盲導犬との日々を語る矢崎氏：矢崎氏は平成17年から盲導犬を使用、現在2頭目のメリッサと行動を共にしています。】

矢崎氏は、乗り物については「私自身の経験では全く問題なく利用できている」そうです。JRの改札では駅員からよく声をかけられ、特に昨年8月のJR蕨(わらび)駅での転落事故以降は駅で一般の人に声をかけられたり、時にはいきなり手を取られて「こっちですよ」と誘導されることがあるそうです。声のかけ方には配慮は必要ですが、関心を持つ人が増えている証でもあります。入店拒否については、友人との旅行の際、海産物の店舗で「動物は入れない」と言われて欲しいものを伝え店頭で購入したり、寺院の見学では「犬は困る」と言われ入れなかったことがあるそうです。県内では、外国人経営も含めてカレーの専門店はほとんど行ったそうですが、「困る」と言われても「とりあえず入れてみたら」と入店し食事を済ませたそうで、入店拒否され困った経験はないそうです。しかし、電話で事前に予約すると「3割程度は断られる」そうで、積極的な行動が拒否の壁を乗り越えるカギになっているようです。また、単独で出かける際には犬の行動を考えてあえて入店しない場合もあるそうです。直売のパン屋では店頭で並んでいるパンに犬が鼻先を近づけないか不安があるため、店舗入り口で声をかけ欲しい品を伝えて購入するそうです。

なお、犬の手入れは毎日のブラッシング、季節により頻度を考えてのシャンプー、月に1度の爪切り等犬のためにも手入れを気遣い、自分の身支度よりも時間と手間をかけているそうです。県内には盲導犬が20頭おり人口比では最も多い方に入りますが、盲導犬に対する周知が進んでいる状況ではありません。矢崎氏はお話の終わりに「多くの人に盲導犬のことを知って欲しいという思いで、一緒に出掛けてどんどん歩きたい」と結んでいただきました。

共有しましょう 合理的配慮提供事例 事前の環境整備事例

ネットワーク会議の委員の皆様、ネットワーク通信を配信している心のバリアフリー宣言事業所、県内福祉関係機関・担当者の皆様に合理的配慮の提供事例や事前の環境整備事例をアンケート形式でお尋ねしております。お寄せいただいた事例を紹介いたします。

「できるところから」の視点～山梨行政評価事務所では

山梨行政評価事務所では、「できるところから」の視点で合理的配慮の積極的な提供を検討し、環境整備に取り組んでいる事例を紹介していただきました。

聴覚障害のある方とのコミュニケーション支援アプリ「こえとら」と「スピーチキャンパス」を事務所所有のタブレット端末にインストールし、使用できるようにしています。予算や体制の範囲内で対応

可能な措置をと検討したそうですが、「職員が、障害のある方が感じている『社会的障壁』を改めて認識し、理解を深めるきっかけとなったと考えている」とのことです。

事務所内で、職員の皆さんが聞こえない方の状況を理解しようと試み、まず、できるところからやってみようと工夫する様子が伝わってきます。一歩の踏み出しが大切なのだと感じます。

企業としての取組の視点～株式会社YCCでは

株式会社YCCでは、「企業や学校から聴覚障害者への合理的配慮提供のための相談を受け、コミュニケーション支援ツールとして『UDトーク』というアプリの提供をとおして支援を実施」して、効果的な活用が進んでいることを報告していただきました。使用している学校では教師や発言者の話す内容が文字化されることで授業内容の理解が進み学習に集中できるようになったことなど、活用の実績がUDトークを製作した企業のホームページで詳しく

紹介されています。

企業活動をとおして、「外見では分かりにくい障害のある方々が多くいる状況から、周囲の理解とともに障害のある方々からの情報発信がもっと必要ではないか」という考えに立ち、積極的な情報発信を支える取組に力を注いでいらっしゃるようです。

また、障害のある方の立場での取組として、新社屋はバリアフリーを意識した施設設備を多く取り入れて建設されたそうです。

助け・助けられる関係での視点～山梨大学では

山梨大学では、差別解消法が施行されてからの1年間で、受験や修学上の配慮に対する問い合わせが増えたそうです。大学では「障がい学生修学支援室」で定期的な面談を行い、施設設備や履修上の配慮に積極的に取り組むほか、「一般学生を雇用して校内のスロープ周辺の整備、障害のある学生の実習先で

の車いす運搬、移動支援」を行っています。また、当該学生が「障がいのある学生を支援する学生サポーターとして活動」し、自身の学びの経験を後輩の学びやすさづくりに活かす取組が進んでおり、助け助けられる関係がお互いさまの関係へとつながってきているように感じます。

理解し合うためにはという視点～手をつなぐ親の会からの提案

「県内の知的障害のある方の暮らしがボランティアの学生たちに支えられてきた歴史」を考えると、障害のある方への理解、思いに寄り添う心は、「幼稚園、保育園から小、中、高とそれぞれの段階に応じた教育の積み重ねが必要であると実感」することです。

それぞれの学校で取組まれている交流及び共同学習がさらに充実し、「自然な雰囲気でお互いの仲間意識が育つ教育環境を整えてもらう」ことが、教育の場における事前の環境整備であり、「障害者差別解消法が施行された成果に期待したい」と結んでいます。

障害者差別地域相談員研修会の開催

第2回研修会を計画しています。今回は、9月中旬から10月下旬にかけ、各圏域単位を基本として4～6会場で開催したいと考えています。

各市町村の地域相談員を中心に、各市町村担当課職員、基幹相談センター等相談員、障害者相談員等の皆様方、各圏域マネージャーにも参加していただくことができるようご案内する予定です。

各圏域ごと障害のある方々の相談に関わる皆様方の情報共有を図るとともに、日々の相談活動での連携が円滑にできる体制づくりもねらいとしています。研修会の設定や運営についても、参加される皆様方にもご協力いただきたいと考えています。相談体制が地域に根差し、障害のある方にとってより身近なものとなるよう取組を進めます。

推進員日誌 障害者差別解消推進員の日々の思いから

委員の皆様方のご協力を得て、第1回ネットワーク会議を終えました。ご報告いただいた事前の環境整備や合理的配慮の提供事例の共有が皆様方の日々の取組の参考となり、障害者差別解消の風が心地よく吹き渡ることを願います。

また、今回の盲導犬使用者の矢崎様のお話では、障害当事者の方々の声を直接聞くことの大切さを改めて感じる良い機会であったと考えています。特に今回は、生きづらさの視点だけではなく、楽しみながら盲導犬と一緒に暮らしている矢崎氏の日々が十分に想像できる語りであったと思います。お互いの理解のためには、日々の楽しさを共有することも大切なのだと感じています。また、送迎の車中で、「店舗によっては犬はこちらへと言われることもあるけれど、でもね、これも私から離れると不安げに鼻を鳴らすんですね」とお話しされていました。お互いを必要としている濃い関係なのだと感じることができました。